



Contents

- 01 / ノースアジア大学教育諮問会議
- 02 / 真理大学（台湾）で国際教育フォーラム、学生の就職支援を強化
- 03 / 国際貢献—JICA 研修団受け入れ、観光学科旅行実習
- 04 / 看護大生が思春期の健康教育の啓蒙活動、模擬裁判
- 05 / 第2回ノースアジア大学文学賞・記念講演会
- 06 / 栄養短大卒業試験、明桜高校オープンスクール
- 07 / 看護大逢星祭、幼稚園トピックス
- 08 / 広瀬大有氏名誉教授に、大学ラグビー部、
本学園 OB 攝津さんパリーグ新人王受賞・インフォメーション

第1回 教育諮問会議

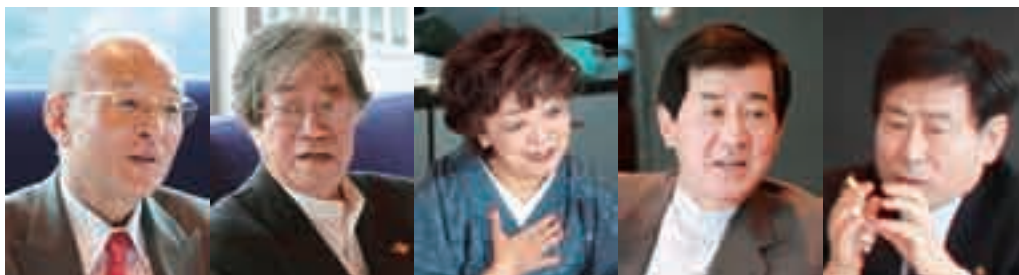
11月16日、第1回目の教育諮問会議が開催されました。

この会議は、学生たち一人ひとりの意欲を引き出すため、現代の教育問題に関心の高い方々から意見をいただいて、大学での教育を充実させることを目的に理事長の諮問機関として今年度から始まりました。

教育諮問会議の委員は、橋本五郎氏（読売新聞特別編集委員）、矢口高雄氏（漫画家）、岡田裕介氏（東映株式会社代表取締役社長）、内館牧子氏（脚本家）の4名。

今回は、全国の大学が共通して抱えている「学生たちが大学生活の中で目標を失わないための支援・指導」をテーマに行われました。

はじめに、小泉健理事長から今回設定したテーマの説明が行われた後、出席した委員からの意見を求めました。



（写真左から）

- ・橋本五郎委員
- ・矢口高雄委員
- ・内館牧子委員
- ・岡田裕介委員
- ・小泉健理事長

委員からは

- ・「採用試験の面接の中で、基本的なことが出来ていない学生が多い。やはり最低限の基本的な礼儀やマナーを身につけて試験に臨んでほしい」
- ・「人と合ってコミュニケーションをとる力が不足している。仕事をする上では、そのことは基本の1番目にくることだ。人との会話の中から新たな情報を発見できるのだから」
- ・「無為に過ごすだけでなく、学生たち自身が何をやればいいのかと考えることを考えて、自分の中で目的を達成するための勉強方法を見つけていかなければならない」
- ・「学生の感覚も変化している。それを認識した上で、何をすべきかを改めて考える必要がある」
- ・「先生の人格が学生に与える影響は大きいと思う。大学の改革は、先生の改革にある」
- ・「学生は、先生の熱意・持っている魅力に敏感に反応する。先生も学生をひきつける講義、魅力ある講義にするために工夫が必要だ。そして、それを実現するための強い意志が必要だ」

など日頃から感じている大学の教育のことや、社会的な背景が与える影響。学生の意識など幅広く意見が出されました。

今後は、この会議での意見をもとに、具体的な方策を検討し、実施していきます。

アジアの時代に大学の国際交流を考える

日本・アメリカの大学関係者が参加し、真理大学（台湾）で国際教育フォーラムを開催



「21世紀というのはアジアの時代。世界の中でアジアの役割が非常に大きくなっていく時代だと思います」と国際教育フォーラムのあいさつの中で話す小泉健理事長。

12月5日、提携校の真理大学の招きで、改名10周年・改制20周年記念式典、国際教育フォーラムに出席。

記念式典に続いて、当日の午後に行われた国際教育フォーラムに、真理大学のほか、アメリカ、日本の提携大学の学長などと共に参加しました。

その中で「この協定を結んだことにより、私どもの学生がこの大学で学ぶという素晴らしい経験をさせていただ

ております。来年度は、真理大から我が大学に学生を受け入れる予定になっております。呉学長始め、真理大学の先生方と、また貴学と友好関係を結んでいる各大学の先生方とこの機会に会えたことを心からうれしく思います」と述べました。

また、「私どもの大学は、57年の歴史があります。私が理事長に就任する前は、秋田県及び東北地方を中心に学生が入学しており、地元で活躍できる人材を育成していました。

理事長に就任した際に、是非国際交流に力を入れなければならないと思いました。就任前は、海外との提携大学は1校でしたが、それ以降提携した大学を含めると全部で6校になります。大学の名称も日本の北にあり、アジアの時代ということを考え、ノースアジア大学と変えております。

大学間の国際交流を行う中では、いろいろな問題があると思いますが、私たちもいろいろと学んで是非、皆様と友好関係を築いていけたらと考えております」と今後、国際交流の推進について話しました。

このほか、フォーラムでは参加大学の国際交流の現状や今後の方向性など様々な意見の交換が行われました。

学生の就職支援を強化

平日の昼休みを活用し、就職ガイダンス・対策講座を実施 ノースアジア大学キャリアセンター

キャリアセンターでは昨年10月から、大学3年生と短大1年生を対象に、月曜日から金曜日の平日、昼休みを活用して就職活動の支援を行っています。

昼休みに行う就職支援の内容は、月曜日の就職ガイダンスフォロー講座、火曜日から金曜日は就職試験の筆記対策講座です。

月曜のガイダンスフォロー講座は、毎週行われる就職ガイダンスの時間帯と履修している講義とが重複する学生たちを対象に行っています。少しでも多くの学生に就職活動の情報を伝え、スムーズな活動を行ってほしいと考え、キャリアセンターが企画し運営しています。短い時間で必要な情報を伝えることになりませんが、学生たちにも浸透しており、そのときどきの不安を解消することに役立っています。

また火曜から金曜は、30分程度の就職試験の筆記対策講座を開講しています。

これは若手の教員から、厳しい就職環境に挑んでいく

学生たちが、苦手とする分野の筆記試験問題を克服し、実力をつけるために何かできないかという発案により、当センターと共同で始めた企画です。

火・金曜日は、キャリアセンターのスタッフが企画した試験問題に学生たちが挑戦をしています。水・木曜日は、若手教員たちが1日1つのテーマに絞って、筆記試験に出題されやすい問題を取り上げ、問題作成から解説まで行っています。

ここでは教員が教室内に複数待機しているので、苦手とする分野の問題も分かるまで教えてもらえると、学生たちから好評を得ています。

最後に、就職活動は学生たちにとって大きく成長できる時期です。学生にとっての貴重な時期を、教員とキャリアセンターのスタッフがアイディアを出し合い、力を併せてサポートする体制を今後も強化していきたいと考えています。

「母子保健」分野で国際貢献 看護福祉大がJICAモンゴル国研修団受け入れ

本学園では、独立行政法人国際協力機構（JICA。以降JICAとする）と連携し、JICA青年研修を本学園の秋田看護福祉大学を拠点に実施しました。

今回は、モンゴル国から医師を中心に看護師、行政担当者など15人が来日。

主に、秋田看護福祉大学で学術・教育研究の人的資源を活用し、「母子保健」及び「青少年の健全育成」をテーマに研修を受けます。

この研修に先だって、10月15日、来日した15人の研修員がノースアジア大学を訪れ、小泉健理事長を表敬訪問しました。

小泉理事長から「これから国の将来を担う子供たちの成長には、国や自治体をあげてのしくみづくりが一番大切ではないかと考えま

す。日本とモンゴルの制度を比較し、導入できるものがあれば是非この機会に多くのことを学びとって、自国の政策に生かしていただければ



幸いです」と歓迎のあいさつを述べました。

これを受けて研修団のリーダーのスプットマー・アルムサハイン氏が研修受け入れのお礼を述べたうえで「皆さんから用意いただいた研修プログラムをしっかりと受けて、帰国後にここでの研修を生かしたいと思います」とあいさつをしました。

この研修は、将来の国を担う若い公務員（20～30歳代）の方々を日本に招き、各分野の知識・技術を学び、研修員の国の発展に資する人材の育成を目的としており、10月27日まで行われ、研修最終日には報告会を行って帰国しました。

社会での体験の中から得られること

観光学科旅行実習



観光学科の学生たちが秋田 - ソウル間の国際定期便を利用し、旅行実習計画を立案。

この実習に参加している阿蘇圭介さん（2年生）は「先生方からアドバイスをいただいて、企業に近い形式で企画・会議を行っています。はじめは、1・2年生の人間関係を築くところから始めました。観光への思いが強い分、学生たちが率直な意見を言えるように心がけました。私たち2年生は、責任者として全体を見渡し、学生の独色が出るようにしたいと考えています」と実習への抱負を語ってくれました。

同学科では、3月下旬に韓国ソウルへの旅行実習に向けて、バーチャルの旅行会社を立ち上げ、旅行の企画から広報・募集活動に至るまでを学生たち自身で行っています。

昨年11月から始まったこの取り組みは、講義で学んだ観光、ホスピタリティ、海外事情の知識を実習の中で実践することを目的としています。

学生たちを指導する井上寛観光学科講師は「学生たちが立案した計画通りに進まないこともあると思います。そのことを想定し、綿密な準備をしたうえで旅行当日を迎えるということは、学生にとって重要なことです。また、ツアー旅行企画として実際の旅行に学生が添乗し、学外との調整などを経験することにより、実社会の厳しさや、人と関わることの面白さなどが実感でき、キャリア教育にも直結することを期待しています」と実社会との交流による学生の成長を望むことを話しました。

また、石郷岡サヤカさん（1年生）は「子どもからお年寄りまで、様々な年齢・性別の人が楽しめる旅行にすることを目標に計画しました。今まで受けた授業の中では、ホスピタリティの中にあった、話し方やしぐさなどの講義などが、役に立っていると思います」と話してくれました。



ピアカウンセラーがデートDVなどの防止を支援

看護福祉大学「B・愛・STAR ピアサークル」が中・高校生を対象に思春期の健康教育の啓蒙活動を実施

「ピアカウンセラーの学生たちもこのような活動を通して、常に自分自身と向き合うことで、自分に対する自信を高めるなど、人間的にも成長しています」と活動での効果を語るサークルの顧問 岩間薫准教授。

11月21日 看護福祉大学「B・愛・STAR ピアサークル」のピアカウンセラー（養成コースを修了した学生）9人が秋田拠点センターアルヴェにおいて、思春期健康教育の一環として、中・高校生などを対象に「Thinking Together ～自分のこと、相手のこと、みんなのこと～」をテーマにピアルームを開催しました。

ピアカウンセラーによるピアカウンセリングの実施は平成17年に始まり、今年は、逢星祭や大館市内のショッピングセンターでピアルームを開催した他、大館市内や県南の高校などでピアエデュケーションを行っており、今回で8回目となります。

この日は、中・高校生など30人を超える参加があり、ピアカウンセラーたちがHIV、エイズ、レッドリボン、性感染症、妊娠、デートDVなどを考えるきっかけとなるようにリラックスした雰囲気の中、クイズ形式での問を解き



ながら行われました。

参加したピアカウンセラーたちは、一人でも多くの若者たちにピアルームの開催を知ってもらおうと、秋田駅東西自由道路（ポポロード）などで積極的に参加を呼びかける活動をしました。

また、岩間薫准教授は「アルヴェで開催するピアルームでは毎回、中・高校生など30人以上が参加しています。参加した人たちは、デートDV、HIV、性感染症などについてクイズ形式で問題を解きながら楽しく、ピアカウンセラーとともに、相手のこと、自分のことを考える時間を過ごします。参加者たちからは、ピアルームは楽しかった、ためになったなどの感想が聞かれます」と、学生と年齢の近い人たちへのカウンセリングの効果を話しました。

裁判員裁判の傍聴を生かす ～ 第18回模擬裁判を開催



裁判官と裁判員が話し合っただけで量刑などを決める評議の場面では、他の人の意見を聞いて迷い、意見を変える裁判員の様子も表現されました。

また、休憩中に、有罪か無罪か、罪名や量刑は何か妥当か、などを問うアンケートを実施。裁判劇の最後には、アンケートの結果を発表しました。

「今回は、脚本を書く上で時代に合ったテーマを設定しました」と話す脚本担当の深瀬謙さん（法学部3年生）。

ノースアジア大学法学部と模擬裁判実行委員会が主催する、第18回模擬裁判が10月31日、同大古田記念講堂で行われました。

この裁判劇は、今年から始まった裁判員裁判を、模擬裁判実行委員長が秋田地方裁判所で傍聴し、その様子を反映させて、裁判員の前のマイクも本物に似せて作り、2台のスクリーンを使用して証拠の灰皿を映すなど、細部にも工夫を凝らしました。

内容は実際にあった事件を参考に、夫からDV（家庭内暴力）を受けていた妻が、娘に手を上げた夫を灰皿で殴り、死に至らしめたという設定で行われ、殺害の意思の有無に争点がおかれました。

劇中では殺人罪で懲役4年となりましたが、アンケートでは傷害致死罪で1年から5年の刑が妥当と考える人が最も多いという結果になりました。

深瀬さんは、「脚本の初版は5月に出来上がりました。本当に大変だったのは、本番直前まで何度も修正、変更をしなければならなかったことです。

今回、委員長が秋田で初めての裁判員裁判を傍聴していたので、その経験を脚本の中で生かす事ができました。

また、来年模擬裁判を行う後輩には、自分の担当以外にも全体をサポートするつもりで、連携をしっかりと取ってやってほしい」と話してくれました。

劇を見ている方も、被告をどのように裁くのが妥当か、劇中の裁判員と一緒に量刑などを考え、裁判員裁判についての理解が深まった様子でした。

受賞者の飛躍を期待

第2回ノースアジア大学文学賞授賞式・記念講演会



第2回ノースアジア大学文学賞授賞式・記念講演会が11月7日、ノースアジア大学40周年記念館講堂を会場に開催。

授賞式では、小泉健理事長から「今年で2回目となった文学賞は、昨年にも増して質の高い作品が集まったと私は感じております。文学賞は、芽が出た若葉のとき。さらに成長して行っていただきたいと思います。受賞者の方から将来数多くの文学者がでることを期待しております」とあいさつし、受賞者に賞状と記念品を贈りました。

高校生の部門の講評で、文学者の井上隆明氏は「受賞した作品は、10枚という限られた枚数でよくまとめていました。最優秀賞を受賞した作品は樋口一葉の『たけくらべ』を思い出させるととても素晴らしいものです」、作家の石川好氏は「書く訓練をすることは、その国の言葉の文化を保持する上で、非常に大切なこと。地方の大学が若い人たちに文章を書く機会を与えたことは、日本の文章力の保持に大変重要なことだと思います」などと話しました。

今回の文学賞には、高校生の部門、大学・一般の部門にあわせて全国から270の応募作品が寄せられ、最優秀賞に岡部達美さん（東京都）＝高校生の部門エッセイの部、島森大地さん（東京都）＝同部門小説・ノンフィクションの部、渡部栄子さん（秋田市）＝大学生・一般部門が選ばれました。



表彰式、記念撮影に続いて、小泉理事長がコーディネーターを務め、矢口高雄氏、石川好氏が参加して「秋田の自然と文化」をテーマにディスカッション形式の講演会が行われました。講演会では、文化や自然を超えて、観光や人口減少など秋田県の抱える課題に及ぶ意見交換・提言が行われました。

その中でも、「映画ロケ地やイベントなどを起爆剤として利用し、付加価値を付けて発展させていくことが大切だと思う」、「観光をはじめ様々な分野で、秋田しか出来ないモデル“秋田スタンダード”を作ることが大切」など秋田の地域活性化につながる提言が数多くありました。



第2回ノースアジア大学文学賞 受賞者

【高校生の部門 エッセイ（自由作品）の部】

最優秀賞	家族の力、話し合いの力 岡部 達美	東京都立田柄高等学校
審査員特別賞	家庭は「心の庭」 岡部 憲和	東京大学教育学部附属中等教育学校
優秀賞	ウツクシイ公園の話 佐々木 さんご	秋田県立秋田高等学校
	「ありがとう」という言葉 鎌田 彩友美	私立明桜高等学校
	ペットと命 長澤 愛美	私立明桜高等学校
	甲子園への道 秋本 慎也	私立明桜高等学校
	定九郎様でアナヨ 小野 こずえ	私立明桜高等学校

【高校生の部門 小説・フィクションの部】

最優秀賞	無言の日 島森 大地	東京都私立桜美林高等学校
優秀賞	息子のいる風景 中山 裕貴	東京都私立田園調布学園高等部
	たった一つの夏 佐々木 友穂	私立明桜高等学校

【大学生・一般の部門 エッセイの部】

最優秀賞	木槿の咲く頃 渡部 栄子	秋田県秋田市
優秀賞	スーパー血液 竹内 祐司	愛知県刈谷市
	車椅子の少年に勇気をもらって 高橋 芳宏	東京都国立市
	おかあさんと、おとうさんといっしょ 西 直人	三重県津市
	父親はカウボーイ 頼富 雅博	群馬県前橋市
	農の現場と食卓がつながる未来へ 宮永 幸則	兵庫県神戸市

栄養学科2年生が卒業試験に挑む



10月23日、秋田栄養短期大学で卒業試験が行われ、栄養学科の2年生が試験に臨みました。この卒業試験に合格することが、必修科目であるゼミナールの単位認定要件となっています。

2年目となる今回は、栄養学の専門分野から5問出題されま

した。

試験を終えた感想を、栄養学科2年生の女子学生は「試験を無事終わることができてほっとしています。夏休み前から学校主催の対策講座に参加し、毎日講座の内容をまとめました。出題は、今まで授業で習った範囲からだったので、友達と教えあったりして勉強しました。専門用語などは、教科書で調べた後に何度も書いて覚えしました。わからないところがあったらそのままにせず、必ず先生に質問し解決するようにしました」と振り返りました。

また、来年卒業試験を受ける後輩へは「出題範囲の内容を、よく理解せずに暗記しようとしても、覚えきれものではありません。卒業試験の内容は、栄養士の採用試験と重複している部分があるので、分からないところは先生に聞いて必ず解決し、きちんと理解してください。普段の授業をよく聞いて、対策講座には必ず出席し、しっかり自学すれば必ず合格できると思います」とアドバイスを送りました。

生徒自らの体験で明桜の“今”を伝える

明桜高校

オープンスクール開催 — 中学生、父母・教員など250人が学校を見学

「スクールバスはありますか」、「特進希望ですが、8時間授業について行けるでしょうか」などといった質問に、「生活に規則正しいリズムをつけるため、早い時間のスクールバスに乗って登校することをおすすめします」、「8時間授業は最初大変でしたが、慣れると大丈夫です」などと自らの体験を交えながら率直に答える明桜生たち。

この程、ノースアジア大学と明桜高校を会場に、中学生とその保護者・教員を対象として授業・学校施設見学などで高校の普段の様子を紹介するオープンスクールを開催。250人が参加しました。

はじめに、古谷元人校長から「明桜高校を知っていただくための充実したプログラムを用意しております。中学3年生の皆さんには進路の参考にしていただきたいと思います」とあいさつがありました。あいさつに続いて学校紹介やカリキュラム・入試の説明を行った後、実際の授業の様子や、校舎内を見学。各コースの特色ある授業、先生方の熱意を持った指導に触れる機会となりました。

在校生が答える「事前アンケートへの回答」と共に行われた部活動紹介では、ふだんの練習のようすなどを披露しながら、入学後には一緒に活動し、大会で良い成績を残しましょうと、生徒たちが明るく元気に呼びかけました。



『瞬間 心重ねて』をテーマに 逢星祭 開催

10月24日、25日の両日にわたり開催された秋田看護福祉大学大学祭「逢星祭」は天候にも恵まれ、地域の方々など多数の人が大学を訪れました。

校舎内では、学生たちの学習・研究成果の発表や看護・介護を体験するコーナーの他、障害者シンポジウムや看護福祉大学で研修を受けているモンゴルの母子保健の関係者、看護福祉大学教員が参加してJICA（独立行政法人国際協力機構）の公開セミナーが行われました。



また、学生による模擬店、小学生を対象としたビンゴ大会、スタンプラリーなどで賑わいました。このほかにも手話サークルによる手話コーラス、大館神明社「田豊講」、ノースアジア大学竿燈会による演技があり、大学祭に訪れた方々から多くの拍手がありました。

実行委員長の藤田祐元さんは「準備を始めた頃は、学内外との連絡や調整がうまく行かずに大変でした。

また、学業との両立の中で夜遅くまで準備にかかることもありましたが、そんな中でも地域の方々に多く参加いただけたと思います。今年は、逢星祭が終わる頃には人が少なくなったので、来年はこの時間帯でも盛り上がるイベントを行ってほしい」と逢星祭を振り返って話してくれました。



のびのび幼稚園・保育園

食べる楽しさを育む



年長組のぴかぴか組・キラキラ組と一緒に調理実習を行いました。

当日、栄養士の先生から材料の切り方などの説明を聞いた園児たちは、みんな一生懸命に取り組みました。出来上がった豚汁は、自分たちで作ったこともあり、格別の味。あっという間に食べてしまう園児もいました。



さくら幼稚園

練習の成果を発揮



11月20日から12月1日までの5日間で園祭発表会が行われました。

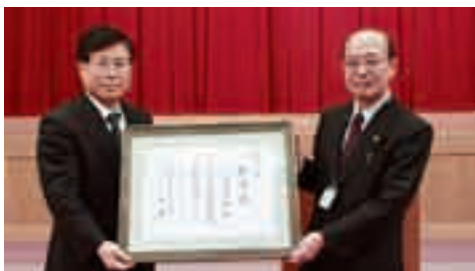
今年は新型インフルエンザの流行で、幼稚園祭を実施することができませんでした。しかし、園祭に向けた

園児たちの頑張りや成長を保護者の皆さんにご覧頂く機会を考えて、開催日を分けて発表会を開催。

園児たちは練習の成果をしっかりと披露していました。それを見た保護者の方からの暖かい拍手に園児たちはとても喜んでいました。例年と違う形での発表となりましたが、保護者の方々と一緒に、子どもたちの成長を喜び合える良い機会となりました。



広瀬大有氏に名誉教授の称号を授与



卒業生から「この大学で勉強できてよかった」と言ってもらえることがうれしいと語る広瀬大有氏。

12月25日、ノースアジア大学40周年記念館講堂において、名誉教授称号授与式が行われ、小泉健理事長・学長から同大学12人目の名誉教授の称号が授与されました。

小泉理事長・学長は「休日にも大学で学生を指導する姿を良く見かけました。また、あるとき、広瀬先生は財布の中から少し色あせた写真を見せてくれました。その写真は、教え子たちと一緒に撮影したもので、いつも大切に持ち歩いていると話してくれました。それを聞いた

ときに、先生は天性の教育者であると思いました」と広瀬名誉教授とのエピソードを交え、長年にわたる教育と学生指導に尽力した功績を称えました。

授賞式後、広瀬名誉教授は「小泉健理事長をはじめ、学園の教員、職員から支えられ長く勤務できた結果、この称号を受けることが出来たと思います。秋田短期大学（現秋田栄養短期大学）の卒業生と言うこともあり、他の教員より後輩となる学生たちへの思いが強く、自分なりに学生に接してきました。

これからも、学生一人ひとりと向き合い、微力ながら大学の力になりたいと思います」と述べました。

広瀬名誉教授は、日本大学大学院商学研究科を修了し、昭和44年にノースアジア大学の前身、秋田経済大学に着任。以後41年にわたり、教員として教育・研究に尽力しております。専門は会計史。「西洋簿記導入史」「福沢諭吉と簿記」を研究のテーマとして論文の執筆等を行っています。

大学ラグビー部 全勝で3部昇格

この春、秋田県ラグビー協会と連携し、スタートした大学ラグビー部。

秋のリーグ戦を3戦全勝（2不戦勝を含む）で4部優勝を果たしました。

11月22日、東北学院大学泉キャンパスグラウンド（仙台市泉区）にて北里大学水産学部との3-4部入れ替え戦に臨み、29対17で勝利し、3部への昇格を果たしました。

内藤徳男監督のコメント

試合前半は、シオーネ・ダンギノア・ププンガ・トア（経済学部1年生）、シオーネ・マヌ・ヴェア（経済学部1年生）両選手の活躍で相手を圧倒しました。後半は、リーグ戦での実戦経験の不足などからチームとしてまとまりを欠く各場面もありました。しかし、キム・ウラム（経済学部1年生）選手の勇敢なタックルで相手の攻撃を防ぐなどし、勝利することが出来ました。今後、2部への昇格に向けて、しっかりとしたチーム作りをしたいと思います。



学園明桜高校OB 攝津正投手（福岡ソフトバンクホークス）が パリーグ最優秀新人を受賞

攝津投手は、2001年3月に明桜高校（前秋田経済法科大学附属高校）を卒業。社会人を経て、2008年のプロ野球新人選手選択会議（ドラフト会議）で福岡ソフトバンクホークスから5巡目の指名を受けて入団。

今年、登板70試合に登板し、防御率1.47で5勝2敗34ホールド。2009年のセットアッパーとしてパシフィック・リーグ最多登板で、39ホールドポイントを挙げて最優秀中継ぎ投手を獲得。

同年12月には、記者投票による表彰でパシフィック・リーグの最優秀新人（新人王）として表彰されました。

本学園OBとして初の快挙です。攝津投手には来年以降も今年同様の活躍が期待されます。

インフォメーション

◇ノースアジア大学特別講演◇ 「健康で生きるための条件」

講師 新潟大学大学院医歯学総合研究科
免疫学・医動物学 教授

安保 徹氏

日時：平成22年3月12日（金）14:30～（開場14:00）
場所：ノースアジア大学

※受講料 無料（参加には事前申し込みが必要です。）

お申込みはFAX、お電話、E-mail、郵送のどれでも結構です。
FAX、郵送の場合は、下記のURLから参加申込用紙をダウンロードしてご利用ください。

URL <http://www.nau.ac.jp/houjin/event/>

【お問い合わせ】 学校法人ノースアジア大学 理事長総室
TEL 018-836-3205 FAX 018-836-3321
E-mail kenko@nau.ac.jp
〒010-8515 秋田市下北手桜字守沢46-1